



環境の価値を学び、

未来を創造する一歩を

大野 栄治 教授

Prof. Ohno Eiji



### 環境の評価

2年次前期配当科目／専門部門（開発・環境科目群）

※ 2021年度旧カリキュラム

## 環境の「価値」を知り、考え方を身につける

### — 「環境の評価」は、どんなことを学ぶ講義ですか？

講義の冒頭には「価格」と「価値」について話します。「価格」は原価などから算出されたモノですが、「価値」は時と場合によって、また人それぞれ異なるモノです。価格がついていて市場で取引されるものばかりに価値があるわけではありません。たとえば、無料で提供されているモノの代表に「環境」があります。「環境」の価格はゼロですが、価値は存在しています。この講義では、環境は市場で取引されない「非市場財」であること、そういった非市場財にも価値があることを解説し、環境の価値を評価しなければならない現在の社会的背景を説明します。そこから、**地球環境問題に対応した環境保全事業や環境改善事業の効果を評価するための方法を、できるだけわかりやすく実例も交えながら解説**しています。

環境の価値を計測する方法として、旅行費用法、ヘドニック価格法、CVM（仮想市場評価法）、コンジョイント分析、離散選択分析、環境経済評価手法などがあります。手法や方法論を取り上げながら、環境の評価の考え方や適用例を紹介しています。**これらの学びを通して、学生たちには問題を発掘する力を身につけてほしい**と思っています。身近なことに疑問を持ち、そこに課題を見つけ、問題の解決策を提案することを経験してほしいです。

## のごとを多面的に見つめ、評価する力

### — この講義を通して、学生に期待することは？

環境には「価格はないが、価値がある」ことを理解し、環境保全や環境改善の取り組みに興味を持ってほしいですね。環境の価値には、自分が直接感じる「直接利用価値」や、将来利用する可能性が保証されることによって感じる「随意価値」のほか、代位価値、遺贈価値、存在価値といった6種が存在します。それらの価値を理解することで、**一面的ではなく多面的にモノの価値を見る力をつけることができる**と思っています。学生から飛んでくる素朴な疑問には、問題の本質が隠れていることもあります。学生たちからの疑問・質問や、学説への反論を大いに期待しつつ、私も学生と共に、互いに学びを深めていきたいと思いながら、講義を進めています。

### — 都市情報学部では、どんなことを学んでほしいですか。

まず既存の学説をしっかりと理解し、その学説を都市問題へ適用する力、問題を解決するための策を提案する力をつけてほしいです。都市問題に限らず**「自分の身の回りの問題を解決するためにはどうすればいいか？」**について、さまざまな知見を応用しながら、自ら解決策を見つけられる力をつけてほしいと願っています。



## 環境経済評価の実務

大野栄治編著（勁草書房）



環境経済評価のさまざまな手法について、理論や適用方法を解説している本で、この講義のテキストになっています。書いたのは随分前なので、今は「ボランティアの経済学」を加筆したい。ボランティアというのは、対象への価値を感じることで自らの時間や能力を使いたいと思うもの。そこを加筆して出したいと思っているところです。

学生におすすめの一冊

### 学生の声

この講義では、CVMなどの理論だけでなく、具体的な実例まで学ぶことができます。実例を知ることで身近に感じるだけでなく、記憶への定着もしやすかったです。大野先生は、学生の質問にとても丁寧に答えてくださいます。積極的な学生に対して、親切に手を差し伸べてくれる先生だと思います。

中川 雅新さん（3年生）

